

今回の研修旅行はパリに一週間という日程で滞在し、ツアーではなく各々が興味惹かれる建築を求めて歩いた。

世界遺産にも登録されているセーヌ左岸や新開発区など地区によって表情が異なる都市の新旧の対比、風景の交差を主にメトロや徒歩で探求した。

パリには広場が多い。オペリスク、凱旋門といった権力の象徴が広場の中央に建ち、その広場より放射状に道が伸びる。権力や平和の象徴がぶつかり合い形成されてきた複雑な歴史の積み重ねを感じる。一つの街でこれほど歴史の深みを感じ取れる場所は他に無いだろう。

また古い建物をただ保存・修復を繰り返すのでは無くガラスや新工法による現代建築も数多く見られ、今後変化し続ける新たな風景に期待が寄せられる。常に新しいものを求め模索し続けたかつての芸術家たちの精神がこの街に根付いている証拠であろう。

今回の研修旅行では、一箇所の都市に滞在することで街路や広場、あるいはパサージュを巡りその中で街を感じ、都市を思考し暮らす、現地の生活者のようにパリを感じ取ることが出来たのではないかと思う。

